

# イカナゴ情報(2013年7月)No.2

平成 25 年 7 月 19 日, 稚内水産試験場調査研究部, Tel 0162-32-7166, 担当: 板谷

これまでの漁獲物のサイズ組成の状況と, 7 月 16~17 日に北洋丸にて観測した水温と魚探の情報を報告します。

## 【漁獲物サイズ】 大型から小型に変化

今漁期の漁獲物サイズ組成の推移を図 1 に示します。当初は体長 23~25cm といった大型魚 (3 歳以上) が主体となっていました, 7 月 17 日のかげまわしの漁獲物では体長 21cm 前後の小型魚 (主に 2 歳) も見えています。このように, 今年は 7 月中旬に例年どおり『型変わり』が見られていますので, 漁模様は昨年より上向くと予想されます。ちなみに, 昨年は小型魚の漁場への来遊が極端に少なく, 漁期を通じて大型魚主体となっていました。

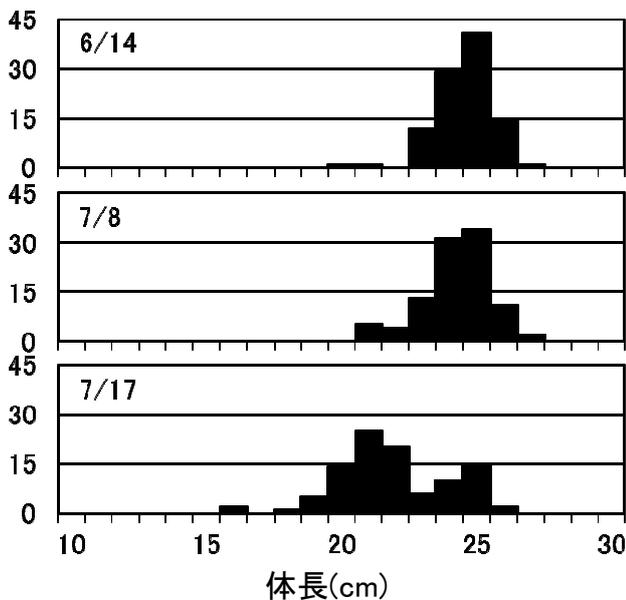


図 1. 漁獲物の体長組成の推移.

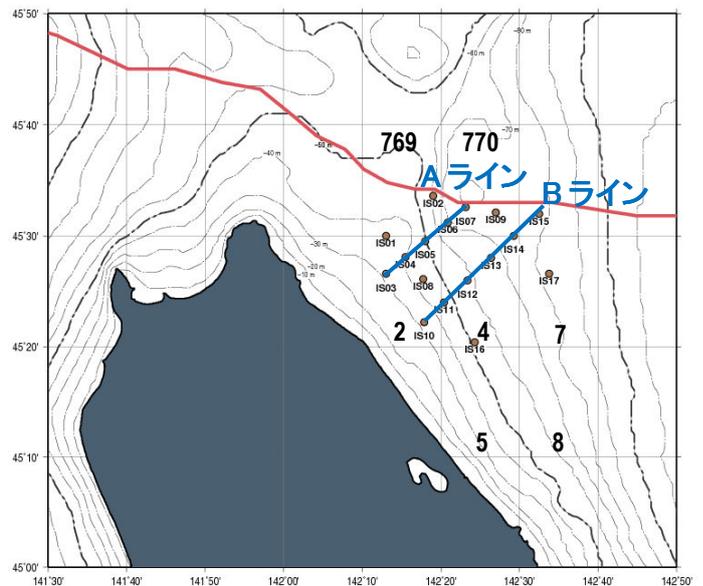


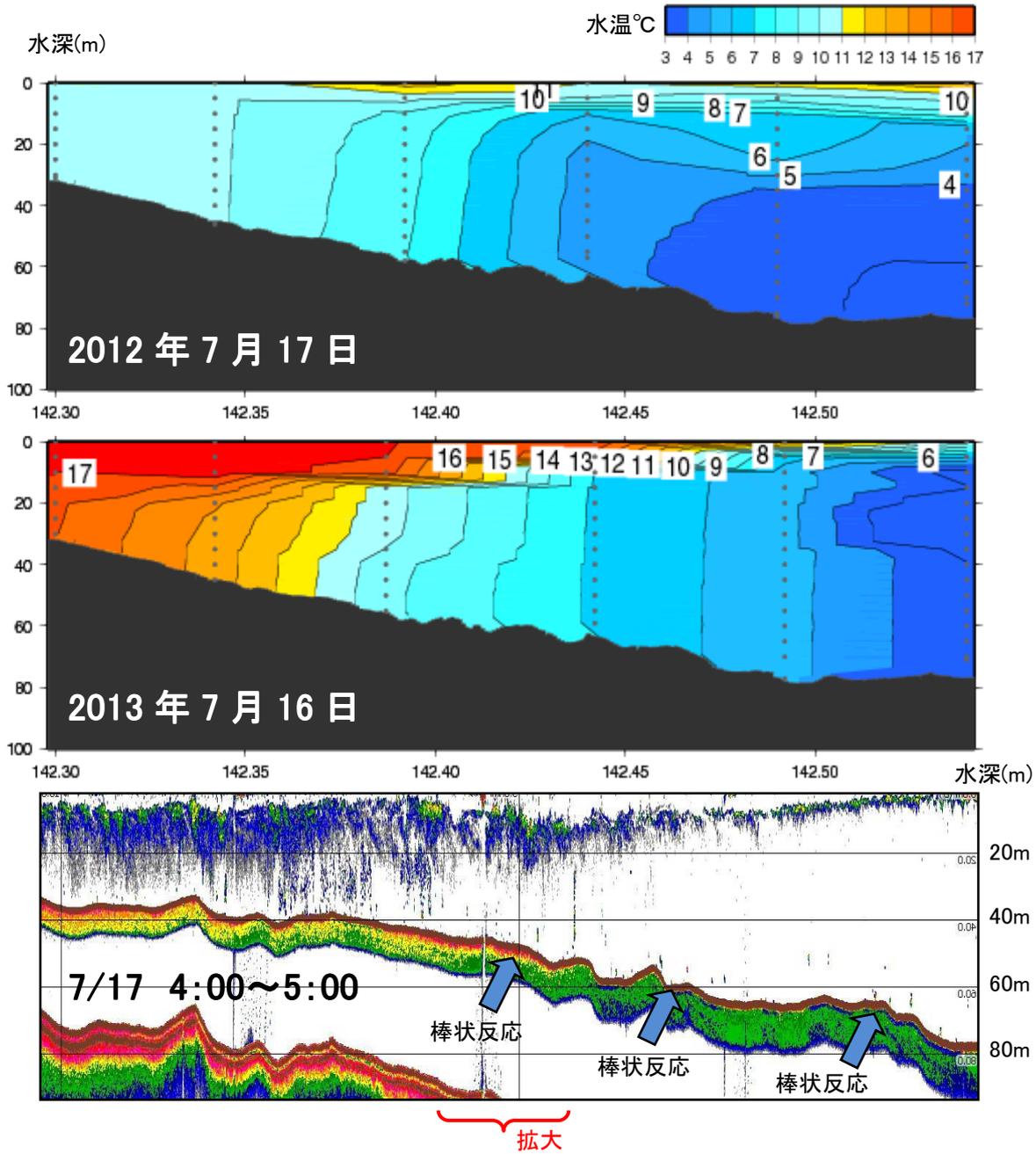
図 2. 調査海域図(7 月 16, 17 日実施).  
(数字は農林漁区番号)

## 【漁場水温と魚探反応】 水温上昇, 漁場水温は昨年より高くなる

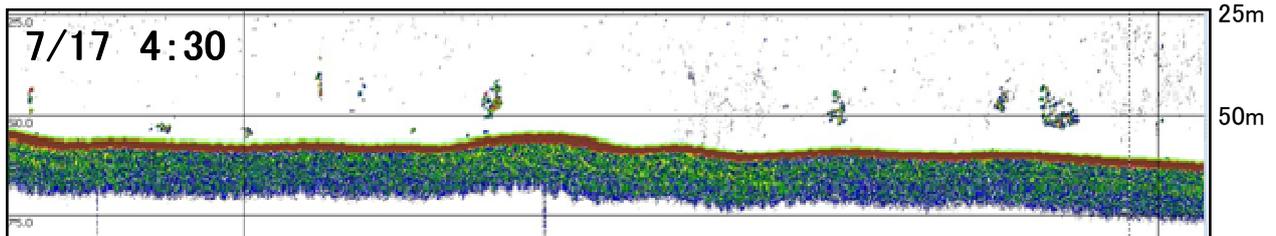
7 月 16, 17 日に, ポケット海域 (769 漁区・A ライン) と猿払沖 (4 漁区・B ライン) 周辺で水温観測と魚探観察を実施しました。底水温は, 6 月には例年よりも低くなっていましたが (イカナゴ情報 No. 1 参照), 今回は, 昨年と同じ時期よりも高くなっており, 水温はこの 1 ヶ月で急上昇したと推察されます。特に沿岸域では水深 30m で底水温が 16°C とかなり暖かくなっていました。魚探観察では, どちらのラインでも魚群は水深 40~80m 付近に観察され, 昨年よりも沖側 (深い海域) に分布していました。

## 【ポケット海域・769 漁区・A ライン】

水深 60m 付近の底水温は 6~8℃と昨年よりも 3℃ほど高くなっていました。水深 50m 以深の海底付近には、棒状のイカナゴと考えられる反応がいくつか観察されました。

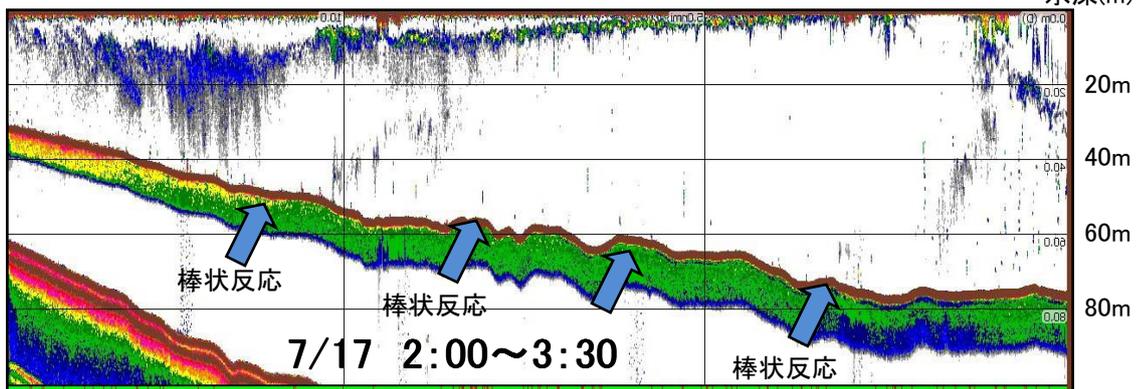
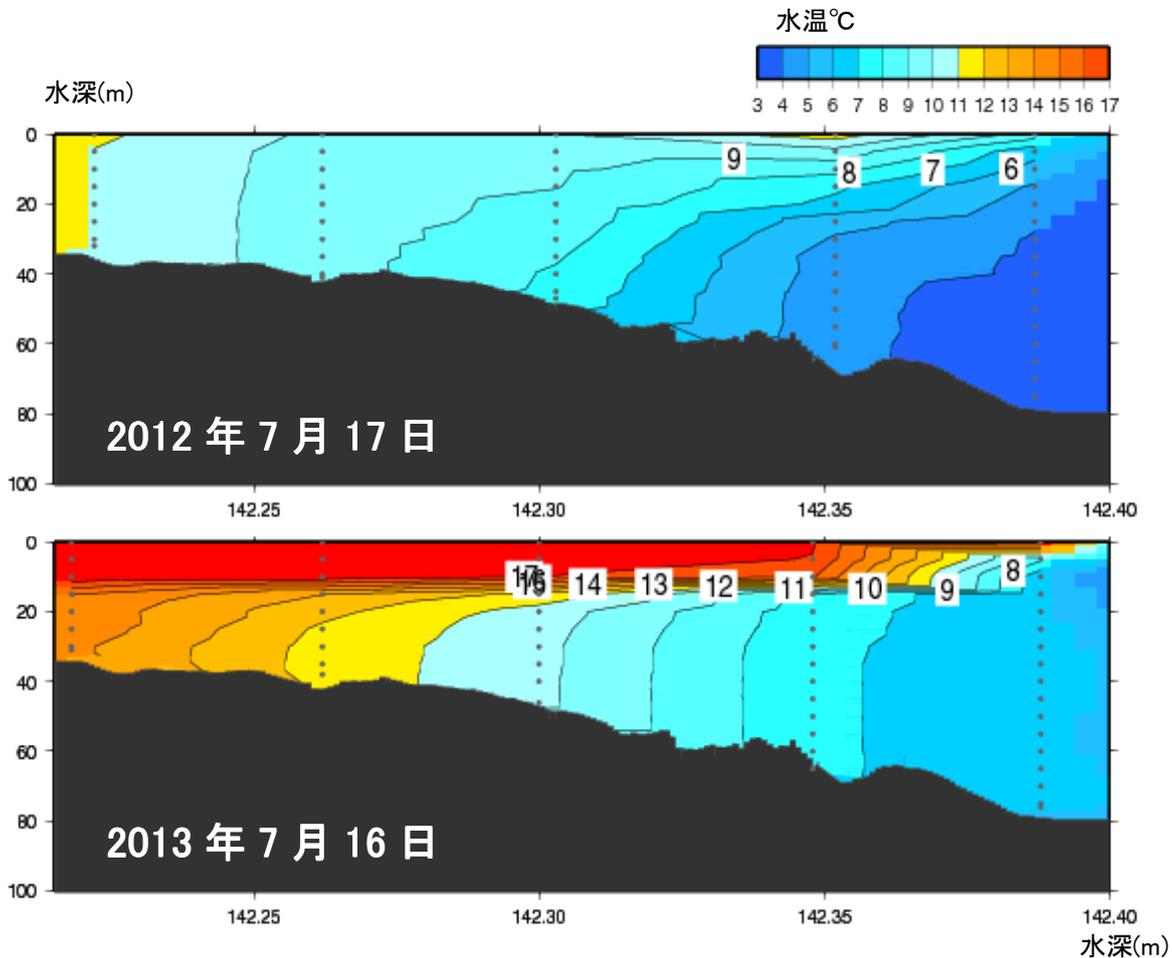


### 海底拡大(水深 50~65m)



### 【猿払沖・4漁区・Bライン】

水深 60m 付近の底水温は 8℃前後と昨年よりも 2℃ほど高くなっていました。水深 40m 以浅の沿岸域では底水温が 10℃以上と、ポケット海域と同様に暖かくなっています。漁場となる水深 60m 前後にはイカナゴと考えられる棒状反応がいくつか観察され、水深 70m 以深にも分布していました。また、これらの反応は水深 40m 付近の浅海域まで分布していました。



海底拡大(水深 55~60m)

